

平成26年度 第1回支援コーディネーター全国会議

高次脳機能障害と 発達障害

国立障害者リハビリテーションセンター 企画・情報部

発達障害情報・支援センター

高次脳機能障害情報・支援センター

深津 玲子

2014.6.24@所沢

高次脳機能障害 診断基準

- 記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの認知障害を主たる要因として、日常生活及び社会生活への適応に困難を有する。
- 先天性疾患、周産期における脳損傷、**発達障害**、進行性疾患を原因とする者は除外する。

発達障害の定義

この法律において「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう。

(発達障害者支援法 第2条 定義)

制度

てんかんなどの中枢神経系の疾患、**脳外傷や脳血管障害の後遺症**が、上記の障害（心理的発達の障害F80－F89、小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害F90-F98）を伴うものである場合においても、発達障害者支援法の対象とするものである。

（平成17年4月 文部科学省・厚生労働省
事務次官通知）

疫学統計

- 高次脳機能障害

人口の0.2%

(=27万人/12,700万人 高次脳機能障害支援モデル事業)

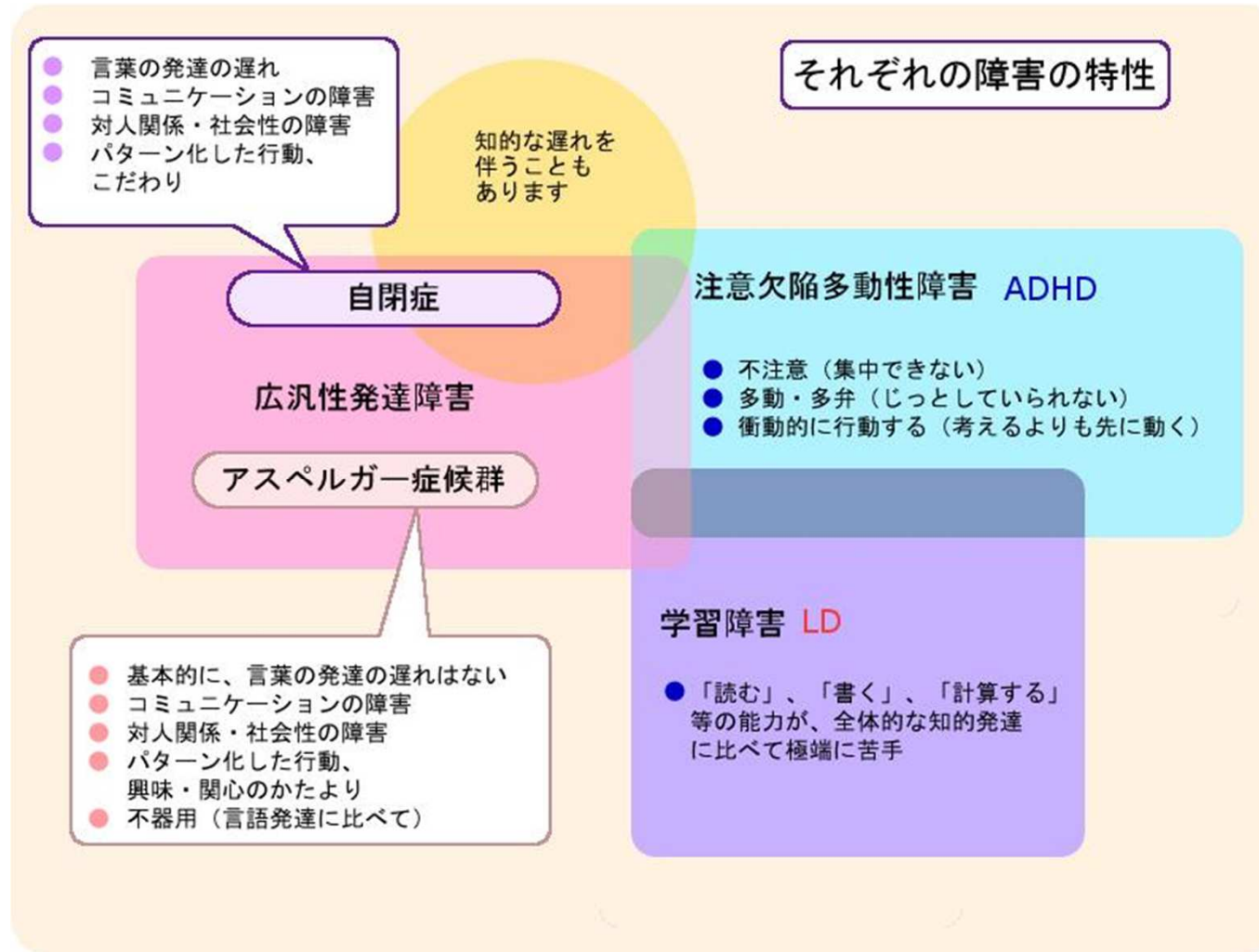
- 発達障害

① 人口の0.9-1.6%(日本 神尾陽子 2011)

② 2.64%(韓国 Young-Shin Kim 2011)

③ 1.47%(米国 CDCレポート 2014)

発達障害



症状の共通点

- 小児期発症の脳損傷では、「一度獲得した機能の喪失」という面のみならず、「発達に伴う機能の獲得」に遅れや障害がみられる。後者は発達障害と共通である。
- 自閉症スペクトラムにおける対人関係およびコミュニケーションの障害、AD/HDにおける多動性、衝動性、不注意、LDにおける読み書きや計算能力の障害などは、脳損傷後にも出現する症状である。

対応の共通点

- 何ができて、何が苦手なのかを明確とし、既存の発達障害に対する教育支援を利用することは可能。支援ニーズをベースにすることが重要。

- 発達障害に対する教育支援の例

「学習面」「行動面」「社会性」の領域から、さらには、「指示を理解することが苦手」「不注意な間違いが多い」「こだわりがある」など、こうした具体的なつまづきに対して、どうして生じているのか、**どう指導・支援していったらよいか**についてみることができます。

(発達障害教育・情報センター—<http://icedd.nise.go.jp/>)

- [指導・支援](#)
- [研修講義](#)
- [教材・支援機器](#)
- [研究紹介](#)
- [施策法令](#)
- [教育相談](#)
- [イベント情報](#)

文字の大きさ [小](#) [標準](#) [大](#) 表示色の変更 [標準](#) [1](#) [2](#) [音声読み上げ等について](#)

国立特別支援教育総合研究所
発達障害教育情報センター



▼ [指導・支援メニュー](#)

- [発達障害を理解する](#)
- [学校における指導・支援](#)
- [図書リスト](#)
- [支援に役立つガイドブック](#)

[アンケートのお願い](#)

学校における指導・支援

ここでは、発達障害のある子どもの気づき、理解、対応の仕方等についての基本的な情報を提供します。「学習面」「行動面」「社会性」の領域から、さらには、「指示を理解することが苦手」「不注意な間違いが多い」「こだわりがある」など、こうした具体的なつまずきに対して、どうして生じているのか、どう指導・支援していったらよいかについてみるすることができます。

👉 [学習面](#)

学習面のパートでは、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」「計算すること」などに、学びにくさがみられる子どもの理解と、指導・支援方法について紹介します。

👉 [行動面](#)

行動面のパートでは、「注意をし続けることが難しい」「授業中や座っているべきときに席を離れてしまう」「日々の活動で忘れっぽい」など、学校や日常生活を送る上での困難をどう理解し、支援していくかについて紹介します。

👉 [社会性](#)

社会性のパートでは、「集団の中に入れない」「予定の変更に対応できない」「こだわりがある」など、学校や日常生活を送る上での困難をどう理解し、支援していくかについて紹介します。

指示を理解することが苦手なのですが・・・

たろう君は、先生の話聞くのが苦手です。先日も「ノートの宿題を書いたページを開きましょう」という指示に、周りを見ながらノートを出したただけでした。

そこで、先生はアセスメント(子どもの様子をじっくりと見て、どんなことがこのつまずきに関連しているかを考えること)を試してみました。

担任の先生は、たろう君が話を聞くことができる時とできない時の状況の違いを観察しました。周りがうるさくても一対一で話し掛けると、その内容を理解することが多かったのですが、ちょっと複雑な内容の指示は一対一でも理解することが難しいことが分かりました。

ここで行われたアセスメントのポイント！

- ・先生が指示を出しているときの子どもの様子を観察する
- ・指示を理解することが難しい場面と理解できる場面との違いは何かをみる

推測できるつまずきの要因

- ✓ 聞くべき音(声)に集中できない
- ✓ 聞いた内容の理解が難しい
- ✓ 聞いた内容を覚えていられない

アセスメントに基づいて、担任の先生は、次のような指導を行ってみました。

- A. たろう君に近寄り、アイコンタクトをとって注意をひきながら話す
- B. 話に関係ある絵を用意する
- C. 黒板に順をおって指示内容を書く

上記のほかにも、先生は次のような点に配慮することが大切です。

- 指示代名詞はできるだけ使わない
- 教室全体が聞きやすくなるような環境をつくる
- 話した内容を確認する
- 必要な情報を「短く・はっきり・ゆっくり」話す
- 複数の指示がある場合は、一つの指示による行動ができてから、次の指示を出す

これらの配慮は、たろう君だけでなく、クラス全員の子どもたちに有効な対応です。

症状の相違点

- 後天性脳損傷を原因とする高次脳機能障害では、「一度獲得した機能の喪失」がある。
- すなわち脳損傷を受ける前に獲得(学習)したことはできる場合もあり、一度はできたことができなくなることもある。
- 記憶障害がある場合には、新たに学習することに大きな困難があり、これは学習面のみならず、友人関係に大きな障壁をもたらす。

対応の相違点

- 脳損傷後の記憶障害に対しては、一般的な発達障害への教育支援は適さない面もある。
- たとえば発達障害教育情報センターサイトで紹介されている「日々の活動の中で忘れっぽい」事例はAD/HDであり、原因は注意障害である。
- しかし対応法としては、A. メモを必ず取るように指導する B. メモを入れるランドセルのポケットを決め、必ずそのポケットに入れることを徹底する C. メモされているか、所定の場所にメモが入っているか家庭で確認する D. うまくいったら大げさなくらい明確にほめる、を徹底することとしており、記憶障害にも利用できる。



ウェブサイトについて <http://www.rehab.go.jp/ddis/>

発達障害情報・支援センターウェブサイトでは、発達障害情報・支援センターで収集・分析した、正確かつ信頼ある情報を、各ライフステージにおいて、さまざまな立場の方に利用しやすい形で提供しています。

新着情報

毎週、月・木に最新情報をお届けします

コンテンツのご案内

- 発達障害に気づく
- こんなとき、どうする？
- 発達障害を理解する
- 発達障害を支える、さまざまな制度・施策
- 日本の取り組み・世界の動き
- 相談窓口の情報
- 発達障害に関する資料

利用者別入り口

- はじめての方へ
- ご本人・ご家族の方へ
- 支援者の方へ

ライフステージ別入り口

- 乳幼児期
- 学童期
- 思春期
- 青年・成人期

NEW

ツイッター

平成25年3月より、ツイッターを新設し、最新情報を投稿しています



サイト内検索

キーワードによる検索で簡単・便利に知りたい情報の検索が可能です

お知らせ

- イベント・研修会情報
- パンフレット

アクセシビリティへの対応

- 「文字のサイズ」の変更
- 「表示色」の変更
- 音声読み上げ
- ひらがな

災害時の発達障害児・者支援について

毎年4月2日は世界自閉症啓発デーです



左のQRコードを読み取ってご利用ください。QRコードが読みとれない場合は、上記URLをご入力ください。



高次脳機能障害情報・支援センターwebサイト

The screenshot shows the website interface with several callout boxes:

- サイト内検索**: Points to the search bar at the top right.
- コンテンツ案内**: Points to the 'コンテンツのご案内' section in the main content area.
- アクセシビリティ**: Points to the '文字のサイズ変更' and '表示色の変更' options.
- QRコード対応**: Points to the QR code and mobile site information.
- コンテンツ別入口**: Points to the '理解する' (Understanding) link in the top navigation bar.
- サービス別入口**: Points to the left sidebar menu with categories like '医療', 'リハビリテーション', '福祉サービス', etc.

URL http://www.rehab.go.jp/brain_fukyu/

